

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市環境審議会				
事務局 (担当課)		環境政策課 電話042 - 769 - 8240(直通)				
開催日時		令和元年8月22日(木) 午後2時00分～4時00分				
開催場所		相模原市民会館 2階 第2中会議室				
出席者	委員	17人(別紙のとおり)				
	その他	2人				
	事務局	7人(環境共生部長、環境政策課長他5人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1. 開会 2. 議題 第三次相模原市環境基本計画について (1) 第1回環境審議会意見・対応方針(案) (2) 第三次相模原市環境基本計画(案) (3) 計画策定に向けたスケジュール 3. その他 4. 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員、 は事務局の発言)

1 . 開会

2 . 議題

第三次相模原市環境基本計画(案)について

資料1から資料3について、事務局から説明を行った。

資料2のp.3について、「図1-1 第三次環境基本計画の位置付け」では、相模原市環境基本条例から「根拠」という文字があるが、本文中に条例を根拠としていることが示されているため、図中にあえて表記しなくも良いのではないかと指摘された。

ご指摘のとおり、修正を行う。

資料2のp.6のコラムについて、計画全体を通して、ここだけ違和感がある。この内容を入れるのであれば、もう少し簡略化して記載ほうが良い。

コラムを入れた意図はどのようなものか。本文に書かれていないものがあると違和感があるため、説明を加えたほうが良いのではないかと指摘された。

コラムでは、違和感があるため、事例報告としてはどうか。環境まつりは、市で行われている取組の一つであるため、コラム以外の名称のほうが良いのではないかと指摘された。

市民の意識調査の一つとして、今年度を実施した環境シンポジウムについて、紹介したものであるが、ご指摘のとおりこのままの表記では、読み手に誤解を与えてしまうため、表記方法について、修正を行う。コラムは、他のページにも記載予定であり、記載方法は、読みやすいように工夫をする。

資料2のp.19、20について、「重点化するべき主な施策」では、施策ごとに対応する基本目標が並んでいるが、見やすさを考えると、各基本目標に対して施策が並ぶように整理したほうが良い。

ご指摘のとおり、修正を行う。

資料2のp.25の「表3 2 SDGsのゴールと第三次環境基本計画の施策との関連性」について、SDGsのゴール14では、「ごみの減量」のみの記載ではプラスチックごみの減量化を指しているのかがわからない。また、「海洋資源の保全」とあるが、「海洋汚染の防止」に修正してはどうか。SDGsに対して直接的貢献がされるものについては、その内容を記載したほうが良い。

ご指摘を踏まえ、計画の施策とSDGsのゴールの関連がわかるよう修正を行う。

資料2のp.26の施策体系のSDGsのマッピングについて、森林は河川を通じて海とつながっており、生物多様性と生態系の保全などの視点から、基本目標3「水とみどり・生物多様性の保全」にもゴール14を追加したほうが良いのではないかと。

ゴール14の取り扱いについては、個別計画である「水とみどりの基本計画・生物多様性さがみはら戦略」と整合を図る。

資料2のp.19の都市部における「資源循環の推進」に対する「重点化すべき主な施策」として、「不法投棄防止対策の推進」と記載があるが、個別計画の「第3次相模原市一般廃棄物処理計画」には、重点施策として、「生ごみ・食品ロスの削減」、「事業系ごみの減量化・資源化」などが掲げられており、これを踏まえ、本計画の「重点化すべき主な施策」として加えるかどうか検討いただきたい。

ご指摘を踏まえ、「第3次相模原市一般廃棄物処理基本計画」と整合を図り、修正を行う。

資料2のp.4の「図1-3 第三次環境基本計画の対象範囲」について、緑地の中の樹林地が森林として含まれているとしても間違いではないが、相模原市は市の約60%が森林で、自然環境として広大な森林が広がっているため、図に「森林」を追加いただきたい。

「緑地」は、都市計画に関わる用語として使われることが多い。「緑地」は、生活環境と都市環境に跨るような形で、自然環境として、新たに「森林」を追加した方が良いため、検討すること。

ご指摘のとおり、図の修正及び追加を行う。

資料2のp.4の「図1-3 第三次環境基本計画の対象範囲」について、「地球温暖化」は、「自然環境」、「都市環境」、「生活環境」のすべてに関わる影響であるため、図における位置づけについて、再検討いただきたい。また、「地球温暖化」は、環境影響を表す言葉であるが、全体と統一するために、環境要素を表す言葉に修正した方が良いのではないかと。

図における「地球温暖化」の位置づけについては、ご指摘を踏まえ、再検討を行う。また、名称についても、「温室効果ガス」など、環境影響を表す言葉から環境要素を表す言葉に修正を行う。

資料2のp.22の「望ましい環境像」について、イラストは必要なのか。

市民に「地域循環共生都市」のイメージを持っていただけるようなイラストを作成予定である。なお、イラストが現時点のものであり、今後精査していく。

資料2のp.4の「図1-3 第三次環境基本計画の対象範囲」について、計画内で自然災害への備えについて、施策の一部に盛り込まれているため、図に「自然災害」の要素を追加しなくて良いのか。

本計画においては、防災関係は扱わないこととしている。

資料2のp.22の望ましい環境像の説明文について、農林産物、お金、人の移動など目に見えるモノが目立つが、生態系サービスなどのモノ以外の価値も書き加えた方が良い。

ご指摘を踏まえて、修正を行う。

資料2のp.25の表3「SDGsのゴールと第三次環境基本計画の施策との関連性」について、SDGsのゴール6の「施策推進による貢献の内容」3つ目に、「水質環境の保全による河川等水質の保全」とあるが、意味が伝わりにくいため、わかりやすい表現に修正すること。

ご指摘のとおり、表現がわかりにくいものとなっているため、修正を行う。

資料2のp.26の施策体系について、基本目標5「環境に配慮したライフスタイルの促進」の「取組方針」に「グリーン購入」、「エシカル消費」などあるが、第4章の施策内容と一部異なるため、整合を図ること。

ご指摘のとおり、第4章の施策内容と整合を図り、修正を行う。

資料2のp.26の施策体系について、解像度が低く、見づらいものとなっているが、今後、修正を行うのか。

解像度や字体など、今後、見やすさ等を考慮し、修正を行っていく。

資料2のp.28の『目標値「二酸化炭素排出量」の考え方』について、グラフにある「 」、「 」の説明がないため、書き加えた方が良い。

ご指摘を踏まえ、図中に説明を追加する。

資料2のp.37の2段落目の3行目に「物」とあるが、この場合「モノ」とカタカナで表記する方が良い。2段落目の4行目に「リユース」とカタカナ表記が一つだけあるため、書き方は統一をすること。

ご指摘のとおり、修正を行う。

資料2のp.62に「1)職場等における環境保全活動、環境保全の意欲の増進及び環境教育並びに協働取組の促進」の主な取組にある「行動学(環境行動を促す動機

付け)を取り入れた環境教育等の検討」について、行動学だけでは、どの学問分野に焦点を当てているのかわからない。環境行動を促す動機付けに対応した学問分野を追加したほうが良い。

ご指摘を踏まえ、修正を行う。

資料2のp.31の施策内容「1)地域資源を活用した再生可能エネルギー等の導入促進」について、2段落目の記述でソーラーシェアリングなどの取組について、記述があるが、今後、市として計画があるのか。また、FITに関する諸問題に対して、市の考えを教えてください。

市としては、売電だけではなく、固定価格買取制度に依存しない自家消費型の太陽光発電や農地を活用したソーラーシェアリングなど、再生可能エネルギーの利用促進につながる施策の検討を進めていく方針である。

資料2のp.52の指標「事業所などへの立ち入り検査の実施回数」について、実施回数が多い方が良いのか、少ない方が良いのか、わかりにくい。

立ち入り検査の必要性など説明を加えたらどうか。

ご指摘をとおり、指標については、わかりにくいものがあるため、考え方や算定式を追加するなど、修正を行う。

資料2のp.52の指標「大気環境基準を達成した地点の割合」及び「騒音の環境基準を達成した地点の割合」は、基準年度の値と最終目標の値が変わらないが、維持することを目標としているのか。目標値として、適しているのかを含めて確認いただきたい。

ご指摘いただいた内容については、担当部局と調整し、事務局で再度、検討させていただきます。

資料2のp.50の「2)水辺環境の保全と再生」の1段落目に「田んぼ」とあるが、所有者以外の立入りが想定し難いものを公共用水域等と並べているのは違和感があるため修正すること。

「解放水面」ではなく、「開放水面」が正しいため、修正すること。

ご指摘を踏まえ、修正を行う。

資料2のp.46の「1)緑地の保全」の主な取組に「法令等を活用した緑地の保全」とあるが、具体的に教えてください。

具体的には、自然公園、自然環境保全地域、保安林等の保全や緑地保全・緑化推進法人(みどりの法人)制度を活用した緑地保全の推進などである。

資料2のp.27に経済成長とあるが、経済成長だけではなく、幅広い意味での成長を表すような「新たな成長」にするなど文言を検討いただきたい。

資料2のp.47の「3）里地里山の保全と活用」について、2段落目に「里地里山の保全活動の推進に向けて、里山条例の指定や認定団体（環境保全団体や事業者等）への支援」とあるが、認定団体に限らず里地里山の保全をしている団体もあるため、「認定団体等」にしてはどうか。

資料2のp.60の取組方針「職場等における環境保全活動、環境保全の意欲の増進及び環境教育並びに協働取組の促進」の名称について、「学校、地域、職場等幅広い場における環境教育」の要素を追加してはどうか。また、環境教育の仕組みづくりの他にも、レジ袋の有料化の促進など社会としての仕組みづくりもあるため、施策体系について、検討いただきたい。

計画本文では、明朝体のフォントを使用しているが、市民の中には、明朝体のフォントが見えにくい方もいるので、それを踏まえ、デザインを検討いただきたい。

ご指摘を踏まえ、各分野の個別計画と整合を図り、修正を行う。

資料2のp.58の指標「日常生活において環境に配慮している市民の割合」について、市民アンケートによって目標設定したとのことだが、アンケート調査の規模によって数値が変わってくる。基準年度の63.6%から最終目標の69.2%の差分は、小さすぎて誤差と判断されることもあるため、留意いただきたい。

「日常生活において環境に配慮している市民の割合」の最終目標値等は、これまでに実施したアンケート結果から暫定的に設定したものである。今後、項目を修正したアンケートを10月ごろに実施するため、その結果や委員のご指摘を踏まえ、基準及び目標値を設定していく。

資料2のp.55の「2）水環境の保全」の3段落目にある全窒素と全リンについては、現状の達成状況が異なるため、分けて記載した方が良い。

ご指摘を踏まえ、事務局で検討させていただく。

資料1のp.7の対応方針（案）で「ESG投資の普及促進」については、市による環境配慮型製品の購入などの取組を促進するとあるが、ESG投資の内容やしくみを踏まえると、グリーン購入や環境配慮契約の促進が当てはまるのではないかと感じる。

資料2のp.57の1段落目の2行目に多様な主体について、記載があるが、市も主体の一つであるため追記した方が良いのではないかと感じる。

資料2のp.63の「2）人材育成及び教材開発・提供事業の登録及び情報提供」の主な取組に「環境配慮行動の推進（エシカル消費、グリーン購入、環境配慮契約など）」とあるが、施策内容に対して適した取組でないように感じる。他の施策に盛

り込むなど修正いただきたい。

ご指摘を踏まえ、事務局で検討させていただく。

以 上

相模原市環境審議会委員名簿（敬称略）第2回(令和元年8月22日開催)

	委員名	所属・役職	備考	出欠席
学 識 経 験 者	一色 正男	神奈川工科大学 創造工学部 教授		欠席
	遠藤 治	麻布大学 生命・環境科学部 教授		出席
	大河内 由美子	麻布大学 生命・環境科学部 准教授 (相模原市廃棄物減量等推進審議会委員)		出席
	岡部 とし子	相模女子大学 栄養科学部 教授		出席
	亀山 章	東京農工大学 名誉教授	会長	出席
	田中 充	法政大学 社会学部 教授 (相模原市地球温暖化対策推進会議会長)		欠席
	南部 和香	青山学院大学 社会情報学部 准教授		出席
	松本 安生	神奈川大学 人間科学部 教授	副会長	出席
	吉永 龍起	北里大学 海洋生命科学部 准教授 (相模原市水とみどりの審議会委員)		出席
市内の 公共的 団体等の 代表者	岡崎 広志	相模原市立小中学校校長会 委員		欠席
	北村 陽子	(特非)さがみはら環境活動ネットワーク会議		出席
	佐藤 治男	津久井郡森林組合 代表理事組合長		出席
	竹田 幹夫	相模原市自治会連合会 副会長		出席
	根本 敏子	相模原商工会議所 常議員		出席
	古屋 伸夫	(特非)かながわ環境カウンセラー協議会 相模原支部長		出席
	山口 誠志	相模原の環境をよくする会 会長		出席
関係行政機関の 職員	鈴木 一成	環境省関東地方環境事務所 環境対策課長		出席
公 募	大久保 和美	中央区在住		出席
	梶山 純	中央区在住		出席
	斎藤 奈美	中央区在住		出席